

市民の手でより親しめる公園に

「桜の木」記念植樹く米代川河川公園

北秋田市米代川河川公園で11月3日、「桜の木」の記念植樹が行われ、市民が親子などで憩いの場づくりに汗を流しました。

米代川右岸にある同公園は、毎年夏に行われる花火大会や、野球やソフトボール、散歩などで利用され、多くの市民に親しまれ、また現在、川の風景を楽しみながら散策ができる花壇やせせらぎ水路など親水性をもった公園にするための整備が進められています。

当日植樹された桜（ソメイヨシノ）の苗木は32本。うち25本を公募で決まった市民が植え、参加者は、子どもの誕生や入学記念、スポーツチームの優勝など様々な記念のことは添え木に取り付けたプレートに記し植樹しました。



記念のことはをプレートに記し植樹する親子

思いやりの心はぐくみ

「子ども人権デーの集いin鷹巣西小」

「子ども人権デーの集いin鷹巣西小」が10月31日、同小で行われ、人権尊重の輪を広げました。

この日は、鷹巣西小が行った「人権の花」運動への感謝状の伝達と、鷹巣阿仁地区の小学校児童を対象に募集し、優秀作品に選ばれた人権標語の入賞者の表彰と発表を行いました。

感謝状伝達式で、西小児童の畠山光大君（6年）が秋田地方事務局大館支局の石井隆支局長から感謝状を受け取った後、同じく代表の成田浩崇君（6年）が、「『人権』という言葉の意味は難しかったが、とても大切なことだと知った。花を見ると心が豊かになる。その心で人に接したい」と運動に取り組んだ感想を述べていました。



感謝状などが伝達された子ども人権デー

ふるさとに思いを馳せて

第19回東京鷹巣会総会・第20回東京ふるさと森吉会総会

首都圏に在住する鷹巣町出身者の会「東京鷹巣会」の第19回総会・懇親会が10月29日、東京都内のホテルで開かれ、関係者およそ180人が郷里の話題などで旧交を温めました。

菊地靖孝会長や岸部市長らによる鏡開きと乾杯で始まった懇親会の各テーブルでは、近況や郷里の話題で話がはずみ、また、今年はジャズプレイヤーとして活躍されている綴子出身の菊地康正さんも駆けつけ、サックスでのジャズ演奏で花を添えました。

テーブルでの会話がはずんだ終盤には、福引抽選会や出席者が輪になった「鷹巣盆踊り」でさらに盛り上がり、「ふるさと」を全員で合唱、



ふるさと談義に花を咲かせた「第19回東京鷹巣会」

懇親会を締めくくりました。

また、第20回東京ふるさと森吉会総会・交流会が、東京のアルカディア市ヶ谷を会場に開催され、首都圏に住む会員約150名が参加し、なつかしいふるさとの話題やお互いの近況報告をし合うなど、親睦を深めました。

交流会では今西祐子氏による歌「秋田内陸線ひとり旅（詞・板垣吉郎 曲・今西昭雄）を披露。最後には参加者全員で「ふるさと」を大合唱し昔をなつかしみました。また会場では「いぶりがっこ」「岩魚骨酒」「きりたんぼセット」などの特産品販売なども行われ、売れ行きも上々。来年また会える日を楽しみに散会しました。



ふるさとを大合唱し昔を懐かしんだ「第20回東京ふるさと森吉会」



書状と楯を前に市長と語る受章者 (写真左の男性が武石さん・右が松栄自治会)

武石さん・松栄自治会が受章

エイジレス・ライフ実践者及び社会活動参加活動事例

このほど「平成18年度エイジレス・ライフ実践者及び社会活動参加活動事例」の紹介事業において、エイジレス・ライフ実践者（エイジレス章）を武石音吉さん（85歳・根小屋）、社会参加活動事例（社会参加章）を松栄自治会（代表九嶋喜實さん）がそれぞれ受章し、10月24日、岸部市長から内閣府特命担当大臣書状と楯が伝達されました。

エイジレス章を受章した武石さんは、成功例のないカジカの養殖孵化に着手し、3年後に成功、社会参加章を受章した松栄自治会は、昭和27年から桜の植林を始め、現在約1キロにわたる桜並木をつくり、管理・維持していることが認められそれぞれ受章となりました。

力強い踊りと元気な掛声に拍手喝采

合高祭前夜祭「路上ダンス」

合川高校の第45回合高祭の前夜祭が10月28日、合川駅前で行われ、今年で5回目となった路上創作ダンスが披露されました。

「こんにちは！お元気ですか？」合高生街に出ると題された創作ダンスは、たざわこ芸術村・わらび座の指導のもと、前夜祭に向けて放課後練習を重ね、路上で元気いっばいの掛声とともに踊り、合川高校オリジナルのニューソーラン節、ニュー秋田音頭には、地域住民の拍手喝采を浴びていました。

翌日は「超新星」SUPER NOVA」と題された合高祭が開催され、演劇やバンド演奏、介護福祉科研究発表などが一般公開されました。



沿道の地域住民から拍手喝采を浴びた合高生の路上ダンス